

第7回世界のウチナーンチュ大会における感染症事前リスク評価

2022年10月

沖縄県衛生環境研究所 感染症疫学管理班

沖縄県感染症情報センター

国立感染症研究所 実地疫学専門家養成コース

目次

背景・目的.....	3
リスク評価実施手順.....	3
リスク評価結果.....	4
① 情報収集.....	4
(1) 大会全体の概要.....	4
(2) 参加地域における感染症発生状況・感染症対策状況等.....	5
(3) 当該疾患についての一般的な疾患情報.....	5
(4) 当該疾患の沖縄県内の状況等.....	5
(5) 媒介動物（ベクター）の調査状況.....	6
(6) 大会会場の周辺環境.....	7
② 感染症発生リスクの評価.....	8
③ 対策.....	8
別紙1 参考情報源.....	9
別紙2 国別感染症流行状況.....	12
別紙3 疾患ごとのリスク評価.....	14
略語一覧.....	19

背景・目的

2022年10月30日から11月3日に、本県において第7回世界のウチナーンチュ大会が開催される。大会是那覇市内を中心とした県内の会場で開催される予定である。

大会開催にあわせ、様々な国から来日、来沖客が大きく増加することが見込まれること、また会場等において、一定の場所・期間に大勢の人が集まる機会が頻回に提供されることから、マَسギャザリングイベントとして感染症発生リスクが増大することが懸念される。

このため、本県において地域住民、来沖客等における感染症発生および対処のためのリスク評価を事前実施することで、感染症拡大の未然防止・回避に向けた対策に資するものとする。また、リスク評価を通じて得られた結果については、感染症発生の早期探知、感染拡大防止、診療の一助となるよう保健所、地域医療機関等への情報提供を行うことにより、強化サーベイランス(後述)の感度を上昇させることを目的としている。

リスク評価実施手順

本リスク評価は

- ・ 国立感染症研究所感染症疫学センター「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての感染症のリスク評価 ～自治体向けの手順書～」

で示されている手順を基本に実施した。手順は以下のとおりである。

① 情報収集

- (1) 大会全体の概要
- (2) 参加者の居住国・地域における感染症発生状況・感染症対策状況等
- (3) 上記で挙げられた感染症を含め評価すべき感染症(以下、当該疾患)についての一般的な疾患情報
- (4) 当該疾患についての沖縄県の発生状況等
- (5) 県内の媒介動物(ベクター)の調査状況
- (6) 大会会場の周辺環境

② 感染症発生リスクの評価

情報収集の段階で挙げられた当該疾患に対して、以下の観点からリスク評価を実施した

- ・ 来沖客(主に海外からの参加者)により、県内への持ち込みが増加する可能性のある疾患
- ・ 持ち込まれた場合に拡大しやすい疾患
- ・ 重症度が高い疾患
- ・ 臨床診断や病原体診断の難しい疾患
- ・ 保健所(自治体)の対応負荷が大きい疾患

③ 対策

②のリスク評価を含め以下の対策を実施する

- ・ 強化サーベイランス
- ・ リスク評価結果の事前共有

リスク評価結果

① 情報収集

(1) 大会全体の概要

開催期間:

2022年10月30日(日)から11月3日(木)

参加国・地域(10月3日時点):

19カ国、1地域 日本、アメリカ(ハワイ、グアム、本土)、ブラジル、ペルー、アルゼンチン、ボリビア、カナダ、タイ、フランス、オーストラリア、グアテマラ、フィリピン、ジャマイカ、英国、ドイツ、シンガポール、中国、ネパール、韓国、台湾

参加国・地域(10月20日時点):

20カ国、1地域 上記、キューバ

大会会場:

沖縄セルラースタジアム那覇、沖縄セルラーパーク那覇、空手会館、県立博物館美術館等、JICA 沖縄(9月29日、沖縄国際協力・交流フェスティバル)、他県内各市町村(歓迎イベント等)

なお、本年はオンラインイベントを併用

参加人数:

現在参加登録中のため詳細は集計中(本年はオンライン参加もあり)

※前回大会:27か国・2地域から7,353名、国内603名が参加(ただし、現地開催のみ)

主なイベント:

第7回世界若者ウチナーンチュ大会:2022年10月27日(木)～29日(土)

沖縄国際協力・交流フェスティバル(関連イベント):2022年10月29日(土)

前夜祭:2022年10月30日(日)

本大会:2022年10月31日(月)～11月3日(木)

以下に関連するイベントを含め実施予定

前夜祭パレード、開会式、閉会式、グランドフィナーレ、市町村歓迎会、移民資料展、文化芸能交流イベント、スポーツ交流イベント、ジュニアスタディツアー、海邦養秀ネットワーク構築事業、世界若者ウチナーンチュ大会、レッツスタディワールドウチナーンチュ、海外移住者講演会、ワールドバザール、チャンプルー交流祭、経済・国際交流・国際協力に関するシンポジウム、平和交流イベント、沖縄平和賞授賞式、国内外報道機関への働きかけ、ウチナーネットワークを活用した周知・発信、産業まつり、市町村観光案内、伝統工芸品の紹介・ワークショップ(工芸の杜の活用)、ResorTech Okinawa

日程、会場の詳細は以下サイト参照

参考 世界のウチナーンチュ大会 Web サイト <https://wuf2022.com/ja/>

(2) 参加地域における感染症発生状況・感染症対策状況等

参加者居住国の感染症発生状況について、

- ・ 「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての感染症のリスク評価 ～自治体向けの手順書～」において国立感染症研究所感染症疫学センターが実施した全国の状況におけるリスク評価で挙げられた注意すべき疾患(麻疹、風疹、侵襲性髄膜炎菌感染症、百日咳、季節性インフルエンザ、中東呼吸器症候群(MERS)、デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、腸管出血性感染症、A型肝炎、E型肝炎、感染性胃腸炎、結核、梅毒、HIV/AIDS)
- ・ 日本国内では通常ほとんど報告のない疾患であるが、参加者の居住国で一定数報告のある疾患
- ・ 厚生労働省や米国 CDC のウェブサイト等で渡航に際して注意喚起がされている疾患

をとして挙げられているものを中心に、2022 年 9 月 27 日時点で参加者 50 人以上が見込まれている国と地域(ハワイ、グアム、アメリカ本土、ブラジル、ペルー、アルゼンチン)について、疾患の報告数(おおよそ過去 5 年間)、VPD についてはワクチン接種率、近年のアウトブレイク発生状況等を収集した。(参考:第 6 回大会参加者居住国割合上位:アメリカ 58%[うちハワイ 44%]、ブラジル 15%、ペルー 8%、アルゼンチン 7%

「第 6 回世界のウチナーンチュ大会」大会調査報告書 https://wun.jp/wp-content/uploads/2017/08/wuf6th_report_jp.pdf)

発生状況は別紙 1 に記載した情報ソースや文献を中心に収集を行った。また、各国の感染症サーベイランスデータはより直近の情報収集を心がけるために、①各国保健省、②ECDC、WHO 地域事務局、③ WHO、④文献等の優先順位で記載をした。

参考とした情報源を別紙 1 に、各国の感染症発生状況の概要を別紙 2 に示す。

(3) 当該疾患についての一般的な疾患情報

上記で挙げられた疾患の一般的な疾患情報(主な感染経路、主なヒトへの感染源、潜伏期間、主な症状・所見、感染リスク等)は以下の Web サイト等中心に収集した。詳細は以下リンクを参照。

- ・ 国立感染症研究所 感染症情報
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases.html>
- ・ 日本感染症学会 症状からアプローチするインバウンド感染症への対応感染症クイックリファレンス
<https://www.kansensho.or.jp/ref/>

(4) 当該疾患の沖縄県内の状況等

上記で挙げられた疾患についての県内での発生のベースラインの確認のために、以下の沖縄県感染症情報センターの Web サイト(感染症発生動向調査)から情報収集をした。詳細は以下リンク参照。

- ・ 沖縄県感染症情報センター
<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjohou/home.html>

(5) 媒介動物(ベクター)の調査状況

疾患については、昆虫媒介性疾患が含まれる。過去に実施されたベクター(蚊、マダニ)調査の状況などは以下の文献などを参考に収集した。なお、今回疾患別にまとめたリスク評価結果(別紙3)に、マダニ媒介性疾患は含まれていない。詳細は以下リンク参照。

【蚊】

那覇市内での感染が疑われたデング出血熱事例について、病原微生物検出情報 2020 年 6 月号
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/2522-related-articles/related-articles-484/9697-484r05.html>

「沖縄県民の森」における蚊の調査結果、沖縄県衛生環境研究所報 第 54 号(2020)
<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/syoho/documents/1kenminnomorika.pdf>

野外で採集された蚊幼虫の殺虫剤感受性調査、沖縄県衛生環境研究所報 第 43 号(2009)
https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/hoken/eiken/syoho/documents/s43-111-114_1.pdf

沖縄県におけるフラビウイルス媒介蚊に関する調査、沖縄県衛生環境研究所報 第 40 号 (2006)
https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/syoho/documents/s41_39-44.pdf

沖縄県における病原体検出状況(平成 17 年度)、沖縄県衛生環境研究所報 第 40 号 (2006)
https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/hoken/eiken/syoho/documents/s40_193-196.pdf

【マダニ】

沖縄本島北部の植生におけるマダニ類の季節消長、衛生動物 (2021)
https://www.jstage.jst.go.jp/article/mez/72/1/72_720106/_pdf

沖縄県で発生したタカサゴキラマダニ幼虫による刺咬症例について—沖縄県で報告されたマダニ刺咬症例リスト—、沖縄県衛生環境研究所報 第 54 号(2020)
<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/syoho/documents/1siryoseibutu.pdf>

沖縄県における衛生動物同定検査(2007 年度-2017 年度)、沖縄県衛生環境研究所報 第 52 号(2018)
<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/syoho/documents/6-52-p79-86.pdf>

沖縄県におけるマダニ類の人体刺咬 5 例について、沖縄県衛生環境研究所報 第 25 号(1991)
https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/syoho/documents/s25_48-51.pdf

(6) 大会会場の周辺環境

本大会で使用される主な会場は以下の通りである。メイン会場である沖縄セルラースタジアム那覇では開会式や閉会式、グランドフィナーレ等が催される。また、沖縄セルラーパーク那覇等の一部会場では出店による飲食がある。このほか各市町村で独自に様々なイベントが開催される。

沖縄セルラースタジアム那覇

住所: 沖縄県那覇市奥武山町42番地1

用途: 開会式、閉会式、グランドフィナーレ

環境: 屋外、天然芝、公園

参考: NPO 法人那覇体育協会 <http://nahataikyo.com/>

沖縄セルラーパーク那覇

住所: 沖縄県那覇市奥武山町42番地1

用途: はいさいステージ、カルチャーワークショップ、出展、出店(飲食あり)

環境: 屋内、人工芝、公園

参考: NPO 法人那覇体育協会 <http://nahataikyo.com/>

JICA 沖縄

住所: 沖縄県浦添市字前田 1143-1

用途: おきなわ国際協力・交流フェスティバル(10月29日)

環境: 屋内

参考: JICA 沖縄 <https://www.jica.go.jp/okinawa/index.html>

国際通り

住所: 那覇市

用途: パレード

環境: 屋外、アスファルト舗装、市街地

他詳細や過去の状況については以下参照

第7回世界のウチナーンチュ大会 Web サイト <https://wuf2022.com/ja/>

第7回世界のウチナーンチュ大会 Facebook <https://www.facebook.com/wuf2022>

② 感染症発生リスクの評価

①の情報を元に当該疾患を「持ち込まれるか」、「拡がるか」、「重症化するか」、「診断が困難か」、「行政負荷が大きいか」という観点から、重要と判断される疾患をピックアップした上でリスクを評価した(別紙3)。

評価を行った疾患は以下の通りである。なお、疾患別のリスク評価に際しては、大会期間が約1週間のため、感染から慢性の経過を経て発症する可能性の高い疾患は除いた。

- ・ VPD:麻疹、風疹、侵襲性髄膜炎菌、百日咳
- ・ インフルエンザ:季節性インフルエンザ、鳥インフルエンザ
- ・ 新興再興感染症:中東呼吸器症候群(MERS)、COVID-19、サル痘
- ・ 蚊媒介感染症:デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、マラリア、黄熱
- ・ 食品媒介感染症:腸管出血性大腸菌感染症、細菌性赤痢、A型肝炎、E型肝炎、感染性胃腸炎
- ・ STD:梅毒
- ・ 参加者居住国特有の感染症:ハンタウイルス肺症候群、シャーガス病、リーシュマニア症

③ 対策

強化サーベイランスの計画

感染症の急激な増加や健康危機事案の早期探知、感染拡大を未然に防ぐために沖縄県保健医療部ワクチン・検査推進課感染症予防班を中心に、県内各保健所、県内各医療機関の協力のもと過去の大会を参考に、以下の強化サーベイランスが計画されている。

強化期間:

2022年10月16日(日)から11月17日(木)の約1か月間

強化内容:

1. 感染症発生動向調査事業における疑似症サーベイランスの強化
疑似症報告定点の追加および発生状況の日報報告
2. 感染症発生動向調査事業における全数報告対象疾患情報還元強化
麻しん、風しん、腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、中東呼吸器症候群(MERS)の5疾患について日報報告
3. 新型コロナウイルス感染症患者報告
県コロナ対策本部と連携し、情報共有を行う
4. 沖縄県蚊媒介感染症対策行動計画に基づく定点モニタリング調査
期間中に会場周辺で蚊のモニタリング調査を実施予定

1および2に関しては日報を通じて関係者に情報を還元し、感染症発生動向調査、届出様式で報告される患者情報のうち、海外からの大会参加者については、備考欄にその旨の記載を行う予定である。注目すべき事案があれば日報に追加掲載をする。また、強化期間中は情報源(別表1)を中心とした参加者居住国(および県外の国内)の感染症イベント発生のサーベイランスを実施し、感染症流行状況の把握を行う。また、関係機関との連携を基に、情報収集を行う。なお、本事前リスク評価を活用することで、県内医療機関等関係者に注意すべき感染症についての情報提供を行う。

別紙 1 参考情報源

国・地域別疫学情報	
厚生労働省検疫所 (FORTH) 国地域別情報	https://www.forth.go.jp/destinations/index.html
厚生労働省検疫所 (FORTH) 海外感染症発生情報	https://www.forth.go.jp/topics/fragment1.html
国立感染症研究所 日本の輸入感染症例の動向について	https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/1709-source/transport/idsc/8045-imported-cases.html
外務省 海外安全ホームページ	https://www.anzen.mofa.go.jp/
WHO Disease Outbreak News (DONs)	https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news
CDC Current Outbreak List	https://www.cdc.gov/outbreaks/index.html?s_cid=cdc_homepage_alloutbreaks_001
WHO Immunization dashboard	https://immunizationdata.who.int/
UNICEF Immunization country profiles	https://data.unicef.org/resources/immunization-country-profiles/
CDC Travelers' Health	https://wwwnc.cdc.gov/travel
CDC National Notifiable Diseases Surveillance System (NNDSS)	https://www.cdc.gov/nndss/data-statistics/index.html
Hawaii State Department of Health	https://health.hawaii.gov/
ペルーCDC (スペイン語)	https://www.dge.gob.pe/portalnuevo/
ブラジル保健省 (ポルトガル語)	https://www.gov.br/saude/pt-br/centrais-de-conteudo/publicacoes/boletins/epidemiologicos
アルゼンチン保健省 (スペイン語)	https://www.argentina.gob.ar/salud
GIDEON (Global Infectious Diseases and Epidemiology Network)	https://www.gideononline.com/
疾患別疫学情報	
麻疹・風疹	
WHO Measles and Rubella Surveillance Data	https://www.who.int/immunization/monitoring_surveillance/burden/vpd/surveillance_type/active/measles_monthlydata/en/
侵襲性髄膜炎菌感染症	
WHO Meningococcal meningitis Surveillance	https://www.who.int/emergencies/diseases/meningitis/en/
PAHO Meningococcus	https://www3.paho.org/data/index.php/en/mnu-topics/mnu-meningococcus-en.html
百日咳	
WHO Statistics on Pertussis	https://www.who.int/immunization/monitoring_surveillance

	nce/burden/vpd/surveillance_type/passive/pertussis/en/
季節性インフルエンザ	
WHO Global Influenza Programme	https://www.who.int/teams/global-influenza-programme/surveillance-and-monitoring/influenza-updates
鳥インフルエンザ	
厚生労働省 鳥インフルエンザについて	https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000144461.html
中東呼吸器症候群 (MERS)	
WHO Middle East respiratory syndrome coronavirus (MERS-CoV)	https://www.who.int/emergencies/mers-cov/en/
デング熱	
WHO Dengue Surveillance	https://www.who.int/westernpacific/emergencies/surveillance/dengue
PAHO Dengue	https://www3.paho.org/data/index.php/en/mnu-topics/indicadores-dengue-en/dengue-nacional-en/252-dengue-pais-ano-en.html?start=1
チクングニア熱	
WHO Emergencies Chikungunya	https://www.who.int/emergencies/diseases/chikungunya/en/
PAHO Chikungunya	https://www3.paho.org/data/index.php/en/mnu-topics/chikv-en.html
ジカウイルス感染症	
WHO Zika virus disease	https://www.who.int/emergencies/diseases/zika/en/
PAHO Zika	https://www3.paho.org/data/index.php/en/mnu-topics/zika.html
腸管出血性大腸菌感染症	
WHO Fact sheet Enterohaemorrhagic Escherichia coli (EHEC)	https://www.who.int/foodsafety/areas_work/foodborne-diseases/ecoli/en/
A 型肝炎	
WHO Hepatitis A	https://www.who.int/en/news-room/fact-sheets/detail/hepatitis-a
E 型肝炎	
WHO Hepatitis E	https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/hepatitis-e
感染性胃腸炎	
CDC Norovirus World Wide	https://www.cdc.gov/norovirus/trends-

	outbreaks/worldwide.html
WHO Diarrhoeal disease	https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/diarrhoeal-disease
梅毒	
WHO Global Health Observatory (GHO) data	https://www.who.int/gho/sti/en/
マラリア	
PAHO Malaria	https://www3.paho.org/data/index.php/en/mnu-topics/indicadores-malaria-en.html
シャーガス病	
PAHO Chagas disease	https://www.paho.org/en/topics/chagas-disease
リーシュマニア症	
PAHO Leishmaniasis	https://www.paho.org/en/topics/leishmaniasis
サル痘	
PAHO Monkeypox	https://www.paho.org/en/monkeypox
CDC Monkeypox	https://www.cdc.gov/poxvirus/monkeypox/index.html
イベント・ニュース情報	
ProMED	http://www.promedmail.org/
CIDRAP	http://www.cidrap.umn.edu/
Outbreak News Today	http://outbreaknewstoday.com/

別紙 2 国別感染症流行状況

注意事項

- 一般的に感染から慢性の経過をたどる疾患は除く
- 疾患名後の略語(日本国内における感染症法上の類型)について以下のように表す。
(1)=全数報告対象の1類感染症、(2)=全数報告対象の2類感染症、(3)=全数報告対象の3類感染症、(4)=全数報告対象の4類感染症、(5)=全数報告対象の5類感染症、(新)=新型インフルエンザ等感染症(⇒COVID-19のみ)、(定)=定点報告対象の感染症、(-)=届出の対象でない感染症
- 国別感染症流行状況概要表内の“常在しているため渡航に際しワクチン接種が推奨されるもの”については大きな流行がない限り以下の定期予防接種対象疾病(下記: A 類疾病および B 類疾病)と一部の任意予防接種対象疾病(流行性耳下腺炎(定)およびロタウイルス感染症(-))の記載は除く。

定期予防接種対象疾病(A 類疾病および B 類疾病)
急性灰白髄炎(2)、結核(2)、ジフテリア(2)、日本脳炎(4)、B 型肝炎(5)、破傷風(5)、百日咳(5)、風しん(5)、麻しん(5)、水痘(定、入院例:5)、インフルエンザ(定)、肺炎球菌感染症(侵襲性:5)、ヒトパピローマウイルス感染症(-)、Hib(ヘモフィルスインフルエンザ菌 b 型)感染症(侵襲性:5)

国別感染症流行状況概要

※太字下線は例年と比較し 2022 年の患者発生が多い疾患

アメリカ本土 人口:3 億 3,400 万人

常在または季節的流行を常に認めるもの	梅毒(5)、A 型肝炎(4)、細菌性赤痢(3)、腸管出血性大腸菌(3)、COVID-19(新)
地域的・散発的な流行を認めるもの	デング熱(4)、チクングニア熱(4)、ウエストナイル熱(4)、マラリア(4)、 <u>サル痘(4)</u> 、侵襲性髄膜炎菌(5)
常在しているため、この国への渡航に際しワクチン接種が推奨されるもの	特記事項なし

ハワイ州(アメリカ) 人口:145 万人

常在または季節的流行を常に認めるもの	COVID-19(新)
地域的・散発的な流行を認めるもの	細菌性赤痢(3)、 <u>サル痘(4)</u> 、デング熱(4) ^a 、梅毒(5)
常在しているため、この地域への渡航に際しワクチン接種が推奨されるもの	特記事項なし

a. 2015 年に流行あり

グアム(アメリカ海外領土) 人口:16 万人

常在または季節的流行を常に認めるもの	COVID-19(新)
地域的・散発的な流行を認めるもの	細菌性赤痢(3)、梅毒(5)
常在しているため、この地域への渡航に際しワクチン接種が推奨されるもの	腸チフス(3)、A 型肝炎(4)

ブラジル 人口:2 億 1300 万人

常在または季節的流行を常に認めるもの	<u>デング熱(4)</u> 、 <u>ジカウイルス感染症(4)</u> 、 <u>チクングニア熱(4)</u> 、レプトスピラ症(4)、シャーガス病(-)、細菌性赤痢(3)、感染性胃腸炎(定)、COVID-19(新)
地域的・散発的な流行を認めるもの	リーシュマニア症(-)、ハンタウイルス肺症候群(4)、 <u>サル痘(4)</u> 、住血吸虫症(-)
常在しているため、この国への渡航に際しワクチン接種が推奨されるもの	腸チフス(3)、黄熱(4)、A 型肝炎(4)、狂犬病(4)、マラリア(4)*

*予防のための抗菌薬投与

ペルー 人口:3300 万人

常在または季節的流行を常に認めるもの	<u>デング熱(4)</u> 、レプトスピラ症(4)、リーシュマニア症(4)、細菌性赤痢(3)、感染性胃腸炎(定)、COVID-19(新)
地域的・散発的な流行を認めるもの	シャーガス病(-)、チクングニア熱(4)、ジカウイルス感染症(4)、 <u>サル痘(4)</u>
常在しているため、この国への渡航に際しワクチン接種が推奨されるもの	腸チフス(3)、A 型肝炎(4)、黄熱(4)、狂犬病(4)、マラリア(4)*

*予防のための抗菌薬投与

アルゼンチン 人口:4530 万人

常在または季節的流行を常に認めるもの	デング熱(4)、細菌性赤痢(3)、感染性胃腸炎(定)、COVID-19(新)
地域的・散発的な流行を認めるもの	ハンタウイルス肺症候群(4)、アルゼンチン出血熱(南米出血熱:1)、 <u>サル痘(4)</u>
常在しているため、この国への渡航に際しワクチン接種が推奨されるもの	腸チフス(3)、A 型肝炎(4)、黄熱(4)、狂犬病(4)

参加者居住国の比較的多い国と地域(ハワイ、グアム、アメリカ本土、ブラジル、ペルー、アルゼンチン)を中心に情報収集をしているが、他の国からの渡航者もあるため、他の疾患についても注意されたい。

別紙3 疾患別リスク評価

- ・ 感染症の持ち込みについては、参加者居住国の比較的多い国と地域（ハワイ、グアム、アメリカ本土、ブラジル、ペルー、アルゼンチン）を中心に評価をしているが、他の国からの渡航者もあるため、他の疾患についても注意されたい。
- ・ 各疾患の臨床症状等については、国立感染症研究所感染症情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases.html>) や日本感染症学会 症状からアプローチするインバウンド感染症への対応感染症クイックリファレンス (<https://www.kansensho.or.jp/ref/>) を参照されたい。
- ・ 各項目の○は要注意、△は注意を表すが、様々な状況を考慮した上での経験的評価であり、明確な判断指標のもとでの評価ではないことに注意されたい。
- ・ 各国の状況は刻々と変化するため、最新の状況によって評価は変わる可能性がある。

疾患	持込増加	拡大容易	重症度高	診断困難	行政負荷高	リスク評価
VPD						
麻疹	○	○	△		○	南北アメリカは麻疹の排除認定状態となっているが、ブラジルでは 2018 年から 2020 年にかけて年間数千～数万例の報告がある。2020 年、2021 年は減少しているものの、ブラジルやアルゼンチンで数十例の報告がある。また、ブラジル、ペルーなどワクチン接種率が低い (MMR1 が 80%未満、MMR2 はさらに低い) 国があることから、持ち込まれる可能性がある。ヒトからヒトへ空気感染するため感染が拡大しやすく、患者発生時は接触者調査やリスクコミュニケーションの対応が生じる。マスギャザリングイベント等でアウトブレイクの報告がある。
風疹		○			○	南北アメリカは風疹の排除認定状態となっており、患者発生は少なく、持ち込まれる可能性は低い。ただし、ブラジル、ペルーなどワクチン接種率が低い (MMR1 が 80%未満、MMR2 はさらに低い) 国がある。日本国内ではワクチン接種の機会がなかった免疫の低い集団 (2022 年時点で満 43～60 歳男性) が存在するため注意が必要。ヒトからヒトへ飛沫感染し、患者発生時は接触者調査やリスクコミュニケーションの対応が生じる。
侵襲性髄膜炎菌感染症	△	△	○		○	ブラジルでは年間約 1,000 例の報告がある。アメリカでは年間数百例の報告がある。ヒトからヒトへ濃厚接触による飛沫感染し、マスギャザリングイベントをきっかけとした感染拡大報告が多数ある。重症化する可能性があり、患者発生時は接触者調査や予防投与、リスクコミュニケーションの対応が生じる。
百日咳		○				アメリカ、ブラジル、ペルー、アルゼンチンで年間数百から数千例の報告があったが、2021 年以降いずれの国でも減少傾向。ヒトからヒトへの飛沫感染だが、感染力が強く、持ち込まれると広がるリスクがある。

疾患	持込増加	拡大容易	重症度高	診断困難	行政負荷高	リスク評価
インフルエンザ						
季節性 インフルエンザ	○	○				ILI+病原体サーベイランスのなかで患者数のトレンドとレベルを把握している国が多い。大会期間中は多くの参加者の居住国である南半球では流行期を過ぎているが、熱帯・亜熱帯地域では通年流行しており、持ち込まれるリスクがある。また、アメリカ本土や県内ではこれから流行拡大が見られる時期でもあり、感染拡大のリスクがある。
鳥インフルエンザ			○		○	2022年4月にアメリカ本土でH5N1発症者の報告が1例ある。他の参加者の居住国におけるヒトの発生はなく、持ち込まれるリスクは低い。持続的なヒトからヒトへの感染は報告されていないため、感染拡大リスクは低い。発症した場合重症化の恐れがあり、リスクコミュニケーション等の対応が生じる。
新興再興感染症						
中東呼吸器 症候群			○	△	○	参加者の居住国における継続的な発生はなく、持ち込まれるリスクは低い。主に病原体を持ったヒトコブラクダから飛沫感染するが、ヒトからヒトへの感染報告もある。医療機関や家庭内でのヒトからヒトへの感染の報告はあるが、コミュニティにおけるヒトからヒトへの継続的な感染は報告されていない。発症した場合は重症化の恐れがあり、リスクコミュニケーション等の対応が生じる。
COVID-19	○	○			○	参加者の居住国においては、概ね患者数が減少傾向にあるが、サーベイランスの変化等を十分に評価できておらず、流行は継続していると考えられるため、持ち込まれるリスクは高い。ヒトからヒトへの飛沫感染(換気等が悪い場合は空気感染もあり)を中心とした感染であり、国内での流行状況を含め、感染拡大のリスクは高い。
サル痘	○	△		△	○	2022年以降9月末時点でアメリカ本土を中心に2万千例以上、ブラジルでは7,000例以上、ペルーでは約2500例、アルゼンチンでは約400例の報告がある。一般的にヒトからヒトへの接触飛沫感染であるが、近年の流行では性的接触による感染報告が多いが、家庭内での感染報告もある。イベントに伴った性的行動変化による拡大にも注意が必要となる。

疾患	持込増加	拡大容易	重症度高	診断困難	行政負荷高	リスク評価
蚊媒介性感染症						
デング熱	○	△			○	ブラジル、アルゼンチン、ペルーでは通年患者発生があり、年間数千から数十万の報告がある。いずれの国でも2022年は5月頃をピークに減少傾向であるが、2022年9月末までにブラジルでは20万例以上、ペルーでは約6万例の報告があり、持ち込まれるリスクがある。病原体を持った蚊の刺咬により感染伝播し、県内には媒介蚊の一つであるヒトスジシマカが生息しており、持ち込まれた場合は拡大する可能性がある。
チクングニア熱	○	△			○	ブラジルでは年間数十万例の報告がある。2022年は5月をピークに減少傾向であるが、2022年9月末までに20万例以上の報告があり、持ち込まれるリスクがある。県内には媒介蚊の一つであるヒトスジシマカが生息しており、持ち込まれた場合は拡大する可能性がある。
ジカウイルス感染症	○	△			○	ブラジルでは年間数万例の報告がある。2022年は6月をピークに減少傾向であるが、2022年7月末までに約2万例の報告があり、持ち込まれるリスクがある。病原体を持った蚊の刺咬により感染伝播し、県内には媒介蚊の一つであるヒトスジシマカが生息しており、持ち込まれた場合は拡大する可能性がある。
マラリア	○		△		○	ブラジルでは年間数十万例、ペルーでは年間数万例、アメリカ本土では年間約1,000例の報告がある。通年で患者が発生しており、持ち込まれるリスクがある。病原体を持った蚊の刺咬により感染伝播し、県内には媒介蚊の一つであるオオハマハマダラカが恩納村以北に生息しているが、ヒト-蚊-ヒトでの自然感染は確認されていない。
黄熱	○		○	○		ブラジルで年間数百例の報告がある。例年1月頃に発生のピークあり。近年都市部での報告もあり、持ち込まれる可能性あり。病原体を持った蚊の刺咬により感染伝播するが、県内には主な媒介蚊であるネッタシマカは生息していないため、持ち込まれた場合でも拡大するリスクは低い。

疾患	持込増加	拡大容易	重症度高	診断困難	行政負荷高	リスク評価
食品媒介性感染症						
腸管出血性大腸菌感染症	△	○	△		○	アメリカでは年間1万例前後の報告がある。アルゼンチンではHUSとして年間約300例の報告がある。ブラジルやペルーではEHEC (STEC)の患者報告システムがなく、事例ベースの報告や急性下痢症や食品及び水系感染症の胃腸炎としての報告の中に含まれている可能性があり、毎年多数の報告がある。ブラジルでは食品及び水系感染症の約3割を <i>E. coli</i> が占める。会場や周囲での食品販売があり、食品由来で拡大した場合、大規模な喫食、接触者調査の対応が生じる。また大会期間は気温や湿度が高く患者発生を多く認める季節である。一定の割合で重症患者が発生する。
細菌性赤痢	○	○			○	アメリカでは年間1万5千例を超える報告がある。ブラジル、ペルーでは細菌性赤痢の患者報告システムがなく、事例ベースの報告や急性下痢症や食品及び水系感染症の胃腸炎として症候群サーベイランスとしての報告の中に含まれている可能性があり多数の報告がある。ブラジルでは食品及び水系感染症の約2%を <i>Shigella sp.</i> が占める。会場や周囲での食品販売があり、食品由来で拡大した場合、大規模な喫食、接触者調査の対応が生じる。また大会期間は気温や湿度が高く患者発生を多く認める季節である。一定の割合で重症患者が発生する。
A型肝炎	○	○			○	アメリカでは年間3,000～18,000例の報告がある。ブラジルでは年間数千例の報告がある。ブラジル、アルゼンチン、ペルーでは、渡航時のワクチン接種が推奨されている。会場や周囲での食品販売があり、食品由来で拡大した場合、大規模な喫食、接触者調査の対応が生じる。また大会期間は気温や湿度が高く患者発生を多く認める季節である。日本国内ではワクチン接種者がほとんどいない。潜伏期間が比較的長く大会終了後も注意が必要。
E型肝炎	△	○			○	ブラジルやアルゼンチンでは年間数例程度の報告であり、患者サーベイランスが行われてない国もある。会場や周囲での食品販売があり、食品由来で拡大した場合、大規模な喫食、接触者調査の対応が生じる。
感染性胃腸炎	○	○			○	ノロウイルスはじめ様々な病原体が原因となる。ブラジル、ペルーでは急性下痢症や食品及び水系感染症の胃腸炎として症候群サーベイランスとしての報告として毎年多数の報告がある。会場や周囲での食品販売があり、食品由来で拡大した場合、大規模な喫食、接触者調査の対応が生じる。過去のマスコギャザリングイベントではノロウイルスアウトブレイク等の報告がある。

疾患	持込増加	拡大容易	重症度高	診断困難	行政負荷高	リスク評価
STD						
梅毒	○	○				アメリカでは年間 10 万～12 万例、うちハワイ州では、年間 200 例前後の報告がある。アルゼンチンでは年間約 1 万例の報告がある。先天梅毒として、ブラジルでは年間約 2 万例、アルゼンチンでは年間約 2,000 例の報告がある。イベントに伴った性的行動変化による拡大に注意が必要となる。
参加者居住国特有の感染症						
ハンタウイルス 肺症候群	△		○	○		アルゼンチンで年間約 100 例の報告がある。ブラジルでは 2016 年に約 2,000 例が報告されたが、その後の状況は不明である。ウイルスに汚染されたネズミの排泄物塵埃の吸入や、ネズミ咬傷で感染するため、感染拡大のリスクは低い。国内感染の報告のない疾患のため患者発生時は迅速な診断がやや困難となる。また重症化する可能性もある。
シャーガス病	△			○		ブラジルでは散発的に年間約 300 例の報告がある。ペルーでは散発的に年間数十例の報告がある。サンガメの吸血、糞便を介して感染するが、県内では吸血性のサンガメは確認されておらず、持ち込まれた場合でも拡大する可能性は低い。国内感染の報告のない疾患のため患者発生時は迅速な診断がやや困難となる。
リーシュマニア症	○	△		○		ブラジルで年間約 2 万例の報告がある。ペルーで年間数千例の報告がある。病原体を有するサシチョウバエに吸血される事で感染し、リーシュマニア症を媒介するサシチョウバエは県内で確認されている(三條場ら、第 62 回日本衛生動物学会大会報告)ため、持ち込まれた場合に感染拡大する可能性は否定できない。国内感染の報告のない疾患のため患者発生時は迅速な診断がやや困難となる。

略語一覧

略語	正式名称	日本語訳
AIDS	Acquired Immunodeficiency Syndrome	後天性免疫不全症候群
CDC	Centre for Disease Prevention and Control	米国疾病予防センター
CIDRAP	Center for Infectious Diseases Research and Policy	ミネソタ大学感染症リサーチセンター
COVID-19	Coronavirus Disease 2019	新型コロナウイルス感染症
EHEC	Enterohemorrhagic Escherichia coli	腸管出血性大腸菌
FORTH	For Traveler's Health	厚生労働省検疫所 旅行者のための感染症情報
HIV	Human Immunodeficiency Virus	ヒト免疫不全ウイルス
HUS	Hemolytic Uremic Syndrome	溶血性尿毒症症候群
ILI	Influenza Like Illness	インフルエンザ様疾患
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
MMR1(2)	Measles, Mumps, and Rubella Vaccine first (second)-dose	第1期(2期)麻疹・風疹・流行性耳下腺炎(3種混合)ワクチン
NPO	Nonprofit Organization	非営利活動団体
PAHO	(WHO) Pan American Health Organization	(WHO) 汎米保健機構
STEC	Shiga toxin-producing E. coli	志賀毒素産生大腸菌
UNICEF	United Nations Children's Fund	国際連合児童基金
VPD	Vaccine Preventable Disease	ワクチン予防可能疾患
WHO	World Health Organization	世界保健機関